

坂出市
地域福祉計画策定における
団体ヒアリング結果報告書

令和 6 年 9 月

坂出市

地域福祉に関する団体ヒアリングについて

1 ヒアリングの目的

平成31年3月に「お互いに、支え合い、ふれあいのあるまち～みんなで助け合うあたたかい地域社会の実現をめざして～」を基本理念とする「第二次坂出市地域福祉計画」を策定し、子どもから高齢者まですべての人々が支え合い・助け合えるまちづくりに取り組んでまいりましたが令和6年度末で計画期間が終了することに加え、この間、地域福祉を取り巻く環境が大きく変化していることから、「第四次地域福祉計画」の策定を進めております。

本計画改訂にあたり地域福祉に関する現場のニーズや課題を把握し、計画策定の基礎資料とするため、17団体に対して「坂出市地域福祉計画策定にかかる団体ヒアリング事前調査票」を郵送し、その結果をもとにヒアリング調査を実施しました。

2 ヒアリング協力団体・実施日程

日時		団体名
8月5日	10:00～11:00	坂出市老人クラブ連合会
	16:00～17:00	坂出地区更生保護女性会
8月6日	9:30～10:30	坂出市身体障がい者団体連合会
	11:00～12:00	坂出市地区社会福祉協議会連絡協議会
8月7日	9:30～10:30	坂出市福祉老健施設連絡協議会
	11:00～12:00	精神障害者家族会白梅会
	13:30～14:30	坂出市連合自治会
	15:00～16:00	坂出市保育所保護者会連合会
	16:30～17:30	坂出市PTA連絡協議会
8月8日	9:30～10:30	坂出市婦人団体連絡協議会
	15:00～16:00	坂出市民生児童委員協議会連合会
8月9日	13:30～14:30	さかいで地域子育て支援ネットワーク(きんときネット)
	15:00～16:00	坂出青年会議所
8月19日	14:00～15:00	坂出市ボランティアセンター運営委員会
	15:30～16:30	坂出市手をつなぐ育成会
8月21日	10:30～11:30	坂出市発達障害児(者)親の会
8月23日	16:00～17:00	坂出地区保護司会

3 ヒアリング結果

(1) 坂出市連合自治会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・行事や活動への参加者減少
- ・自治体全体が高齢化し活動に支障がある
- ・役員の負担が大きく、なり手がいない
- ・自治会と各団体との繋がりが希薄となっている
- ・資格を持った人(民生委員等)が活動しないと説得力がない
- ・地域を支える組織、柱が解体(機能が低下)していつている

イ これから行いたい地域活動について

- ・祭りやイベント等、自治会員が交流できる行事の充実
- ・子どもの頃から参加して、地域に馴染みを持ってもらえる活動
- ・自治会への加入促進、自治会運営の透明性の確保や周知

ウ 他団体との連携について

- ・様々な地域団体が縮小している、これまでとは違った連携の強化が必要と感じている

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート(支援)

- ・市の自治会加入促進に対する協力体制が必要
- ・組織を支える体制づくりを見直すべき
- ・災害時の支援やその他登録関係など、行政での対応の一本化

(2) 坂出市地区社会福祉協議会連絡協議会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・各種団体の縮小による、地区社協全体の縮小(地区社協は各種団体で構成されているため)
- ・地区社協の活動を必要とする人は増えているが、担い手が減少、後継者が不足
- ・地域での関りが希薄になってきているため、アプローチが難しい
- ・コロナ禍で中止していた配食・行事等の再開が難しい地区がある

イ これから行いたい地域活動について

- ・子ども食堂など、子どもを地域で支える活動
- ・居場所づくり、仲間づくりに繋がるような活動
- ・地域に関心を持ってもらえるような活動

ウ 他団体との連携について

- ・現在は、地区内の団体が連携している
- ・小地域でのネットワークなど見守り活動では、民生児童委員との連携が不可欠
- ・今後は、企業や法人との連携による担い手の確保
- ・学校との連携により、若年層や子どもとのかかわりで一体感を醸成

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート(支援)

- ・企業や法人、多職種・他分野との調整役としてのサポート
- ・空き家や空き店舗などを活用した拠点整備、利用促進など

（３）坂出市民生児童委員協議会連合会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・地域課題が多様化・複雑化し、委員への負担が増加
- ・定年延長の影響もあり、なり手が不足している
- ・高齢化が進み、短期間で退任する方が多くなっている
- ・民生児童委員の活動が認知されておらず、調査や見守り等に支障がでている
- ・個人情報保護や守秘義務による情報提供・情報共有の在り方

イ これから行いたい地域活動について

- ・地区を超えて繋がることのできる環境や場づくり（子育てサークルの広域化等）
- ・若い世代への民生委員制度のPR活動（こども民生委員など）

ウ 他団体との連携について

- ・地区社協や自治会との連携による地域活動への参加協力
- ・市や民間事業所との連携による見守り活動協定事業の推進
- ・教育機関（小・中学校）との連携
- ・福祉推進委員との連携による見守り活動等の推進

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・委員の負担軽減に向けたフォローアップ
- ・専門機関との連携によるサポート体制の構築や強化
- ・委員のなり手確保や後任者選任へのサポート
- ・災害時における委員の役割明確化と住民や関係機関への周知徹底

（４）坂出市婦人団体連絡協議会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・役員や会員の高齢化による後継者不足・会員の減少により、組織力の低下、解散
- ・コロナや猛暑によるコミュニケーション不足により、地域住民との繋がりが希薄になった
- ・敬老会などの運営に係る経費捻出や日程調整が難しい

イ これから行いたい地域活動について

- ・認知症に対する活動、地域での助け合い
- ・婦人会活動などで得た経験を生かした活動
- ・自治会や地区社会福祉協議会との連携による行事の開催
- ・日赤ボランティアメンバーとして、新しい知識を得る活動

ウ 他団体との連携について

- ・自治会や地区社会福祉協議会との連携による行事の開催

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・行政から各種団体が連携できるように促してもらいたい
- ・運営の事務的サポート

(5) 坂出市老人クラブ連合会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・会員数の減少、活動規模の減少
- ・会長の成り手不足による単位クラブ数の減少
- ・自治会での役割が困難になり、自治会退会＝クラブ退会となる
- ・活動時の交通手段の確保が困難

イ これから行いたい地域活動について

- ・仲間作りの一環として、健康増進の活動（握力、歩行訓練）を継続
- ・友愛活動や奉仕活動の継続
- ・細かい取組は、各地区の状況に応じて行っているが、・多くの人に参加して貰うため、新しいメニューを模索している

ウ 他団体との連携について

- ・単独での取り組みが難しくなっているので、地区全体として関係団体と一緒に事業を行っていききたい
- ・災害時要支援者への取り組みは、老人クラブとして協力する必要があると思っている

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・免許返納などにより、行事参加への交通手段が無い方が増え活動も縮小、移動手段・駐車スペースへの配慮を検討してほしい

(6) 坂出市身体障がい者団体連合会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・分会・会員数の減少（福祉サービス・福祉施設の充実も影響）
- ・後継者の育成が進まず、役員が固定化
- ・プライバシー保護による新規会員の勧誘が難しい

イ これから行いたい地域活動について

- ・身体障がいに限らず、他の障がい者(身体障がい・知的障がい・精神障がい)が広く参加できる行事の開催

ウ 他団体との連携について

- ・県内の障がい者団体と連携し、福祉大会やスポーツ大会を開催
- ・他団体の座談会等への参加による情報交換
- ・今後、障がい「身体」に限らず、他の障がい団体と連携を行いたい

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・新たに障がい者手帳を取得した方へ、団体のPRをしてほしい
- ・活動拠点の確保

(7) 精神障害者家族会白梅会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・会員の人数も年々減り続けている(子どもを施設に入れたら繋がりを求めている)
- ・会員の高齢化により活動を行うことが難しい
- ・精神障がい者の地域での理解が乏しい

イ これから行いたい地域活動について

- ・精神障がい者の家族として横の繋がりを保つため集まりを行う
- ・障がい者の県家族会、勉強会、広域のみんなネット等の交流に参加
- ・家族会でやっている家具リフォームの作業(ロコミで広がり、会員外からも問い合わせあり)

ウ 他団体との連携について

- ・精神障がい者県家族会やみんなネット大会(四国学院西谷先生勉強会)に参加
- ・「手をつなぐ育成会」「坂出友愛のつどい」等の会に参加

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート(支援)

- ・いろいろな団体の活動をオープンにして、障がい者全体が一体的に活動できる場を行政で進めてほしい
- ・障がい者や家族は引っ込み思案のため進んで交流することが難しい
- ・親子でコミュニケーションが取れるうちに、施設等今後の生活について相談することを促すようなサポート体制の充実
- ・ひきこもりの若い方に、施設入所より前段階の居場所・通える場があれば良い

(8) 坂出市手をつなぐ育成会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・会員の高齢化などによる減少により、単体での活動が困難
- ・福祉サービス・福祉施設の充実により、地域での活動を求める人がいない

イ これから行いたい地域活動について

- ・災害発生時の対応についての学習や訓練
- ・地域に向けた障がい理解の促進、学ぶ機会の創出など

ウ 他団体との連携について

- ・発達障がい児(者)親の会との連携
- ・交流の継続により、連携できる団体等を見つけない

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート(支援)

- ・法改正などがあれば、教えてもらいたい
- ・マンパワーを補うために、ボランティアに協力して欲しい(共に学ぶ機会にもなる)

(9) 坂出市発達障がい児（者）親の会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・参加するのが難しい人もいるので、参加したい回のみでも可(参加費その都度)としているため、会員として新規に入会する人がいない
- ・地域の中で団体の認知度が上がらない
- ・発達障がい児(者)は、増加しているが、保護者や家族のニーズが拾い切れていない
- ・発達障がいという名称や診断名だけが独り歩きしている(人を揶揄する言葉で使われることも)
- ・その特性や支援の仕方までは、周囲の理解が進まない

イ これから行いたい地域活動について

- ・まずは現状を維持し、月1回の座談会と研修会を継続したい
- ・他団体と連携して保護者を対象とした研修会の開催

ウ 他団体との連携について

- ・坂出市手をつなぐ育成会との連携継続
- ・アルプス香川からの講師派遣の継続
- ・NP0 法人わははネットやhito.tocoとの連携による座談会や研修会の開催検討

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・当会の活動について知ってもらいたい
- ・活動内容の周知に協力してもらいたい
- ・困り感を抱える保護者を当会に積極的に繋げてほしい
- ・発達障がいは、見た目では分かりづらく理解されにくい障がいであるため、行政や社協の方々にも、その特性やサポート方法などを学んでいただき、困り感を抱える保護者に寄り添ってもらいたい

(10) 坂出市 PTA 連絡協議会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・自動的に加入するという現在の PTA の在り方に疑問が上がっている
- ・ハードルが高いと捉えられていて、役員の成り手がいない

イ これから行いたい地域活動について

- ・子どもたちの登下校時の見守り活動の強化
⇒周知啓発を目的に PR グッズ（キーホルダーやステッカー等）の普及

ウ 他団体との連携について

- ・市内の様々な団体や企業の協賛で「こども見守り隊」を発足

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・子どもたちの安心・安全への協力に向けた更なる連携

(11) 坂出市保育所保護者会連合会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・保護者同士の交流の場が少ない
- ・他の保育所との交流が少ない
- ・コロナがあり、以前より全体的に活動が減っている
- ・リーダー的存在がいらない

イ これから行いたい地域活動について

- ・既存の活動の充実（交流の場づくり）

ウ 他団体との連携について

- ・他の保育所等との連携

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・取組へのサポート

(12) 坂出市福祉老健施設連絡協議会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・地域ボランティアの高齢化に伴う、マンパワーの不足
- ・集落の空洞化や自治会加入率の低下に伴う、高齢者世帯の孤立
- ・施設全体として市との関りが希薄
- ・世代間交流が減少
- ・ボランティアだけでなく、生涯学習活動を指導してくれる人との繋がりがほしい
- ・地域活動の費用捻出が負担
- ・災害時の施設間連携が不安
- ・各施設での災害時の備蓄などの情報共有ができていない

イ これから行いたい地域活動施設について

- ・コロナ禍以前に行っていた施設開放によるイベント等の開催
- ・地区内行事の積極的な共同開催と利用者の参加促進
- ・施設利用者が地域の中で多様な人たちと繋がりながら生活できる活動の推進
- ・福祉施設の地域貢献活動
- ・福祉団体側からも市民ニーズを知り、興味を持って貰える活動が必要

ウ 他団体との連携について

- ・地元自治会との連携による防災訓練

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・法制定の趣旨の説明や周知など、地域貢献活動の実施についての指導
- ・地域に具体的な活動内容などの周知
- ・社会福祉協議会でも施設連絡協議会の活動について検討テーマに掲げて欲しい
- ・災害時の事業継続に関して、行政や社協からの支援があるのか知りたい

(13) 坂出地区保護司会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・保護司の安定的な確保、後任者の推薦が難しい
- ・近隣の対象者を保護観察するので、近隣の人に保護司をしていること伝えていない
- ・人口減少や高齢化により、自治体職員に頼る事例もある

イ これから行いたい地域活動について

- ・保護司セミナーの開催による、要員の確保
- ・各種イベントへの積極的な参加による PR 活動
- ・関係機関等との連携強化による更生保護活動の推進

ウ 他団体との連携について

- ・坂出地区更生保護女性会
- ・坂出市少年を守る母の会
- ・地方公共団体・関係機関・協力企業等との連携強化

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・サポートセンターは商工会議所内にあるため、夜の遅い時間・休日等の面接場所の確保に協力してほしい
- ・地域支援ネットワークの構築と組織体制づくり

(14) 坂出地区更生保護女性会

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・会員数の減少、平均年齢の上昇、更生保護女性会の認知度が低いため、勧誘が難しい
- ・団体がどのような活動をしているか、PR する場がない

イ これから行いたい地域活動について

- ・更生保護施設への慰問・支援の継続
- ・青少年犯罪非行防止活動の継続

ウ 他団体との連携について

- ・保護司と連携した活動を継続・強化したい
- ・BSS 会(非行少年等に年齢の近い若い方たちが支援する団体)・地域行事とも連携したい

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・更生保護女性会の存在や活動の理解が広がるような協力
- ・研修会・講演等のサポート

(15) 坂出青年会議所

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・メンバーの減少による活動の縮小⇒モチベーションの低下
- ・実行委員等の責任や負担が大きい
- ・会議の開催頻度も多くできず、スピード感を持った対応がなかなか難しい
- ・企画しようとしてもイベントの会場が少ない

イ これから行いたい地域活動について

- ・会員の交流・研修、青少年事業、まちづくり事業、にぎわい創出事業、防災事業など既存事業の継続開催
- ・地域課題に対応するような事業の実施
- ・防災関係において、四国内の青年会議所との連携の継続

ウ 他団体との連携について

- ・これまでの連携に加えて、中讃地域の青年団体との連携強化

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・イベントについての広報への掲載回数をもう少し増やしてほしい
- ・高校生ボランティアの募集等への協力強化
- ・実行委員の負担が少しでも軽減されるようなサポート体制の充実

(16) さかいで地域子育て支援ネットワーク（きんときネット）

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・各団体がそれぞれの事業に取り組むので精一杯
- ・立ち上げ当初のメンバーから変わらない
- ・ネットワークづくりがもっと大事になってくるのではないかと（組織の拡大）
- ・地域全体で子育てをしていくという考えが頭では分かっているものの、実際のところの動きに繋がっていない
- ・若い人が集まるような仕組みづくりが坂出市全体として必要
- ・参加してもらう（見てもらう）だけでもいいから最初の一步を踏み出すきっかけづくりをきちんと考える必要がある

イ これから行いたい地域活動について

- ・他の地域で主催する活動に相互に協力していきたい
- ・市内の子育て支援に関する情報提供、普及・啓発活動の実施
- ・保育所、こども園との連携強化

ウ 他団体との連携について

- ・社会福祉協議会に高校生ボランティアの要請
- ・市内の子育て支援団体等との連携による情報提供
- ・保育所、こども園、小・中学校、高校との連携による子どもの居場所づくり活動の充実

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・高校ボランティアを募り、多方面で協力してもらっている

- ・行政（市）の信頼性を生かした、広報誌の活用、PR 活動の充実
- ・行政（市）からの積極的な情報発信など
- ・他の分野と連携が取れる体制づくり、社協も含めた役割分担

(17) 坂出市ボランティアセンター

ア 地域活動を行ううえで困っていること

- ・学生向けの夏休み体験学習が、学校側の行事予定の変化や熱中症リスクへの考慮もあり、参加者を募るのが困難
- ・ボランティアグループメンバーの高齢化、後継者不足
- ・現役世代はボランティア活動に継続的に参加しづらい
- ・コロナ禍により施設等での活動が縮小

イ これから行いたい地域活動について

- ・ボランティアグループ同士の交流の促進（コラボレーションなど）
- ・他市町のボランティアとの交流
- ・学生ボランティアの活動のバックアップ
- ・福祉教育プログラムを作成し、各教育機関に配布

ウ 他団体との連携について

- ・行事への参加、協力（市社協）
- ・福祉体験学習の実施（市内福祉施設）
- ・活動支援（身体障がい者の社会参加活動）
- ・学生ボランティアに関して、教育機関との連携強化
- ・広報、啓発活動の連携強化

エ 今後活動をする上で、行政や社会福祉協議会の在り方や、必要なサポート（支援）

- ・ボランティアニーズの把握
- ・ボランティア活動の PR やバックアップ
- ・ボランティア活動をしたい人（新しい担い手）の発掘